

- 1 報告地区 : 帯広地区  
2 事例報告学校名 : 帯広市立広野小学校  
3 報告者 : 校長 伊賀 真美  
4 キーワード : 学力向上に向けた学校改善



## 1 はじめに

本校は児童38名のへき地小規模校です。一人の職員にかかる役割や負担も大きく、児童に確かな学力を身に付けさせるためには、学校がチームとして機能する必要があります。そのため、全国学力・学習状況調査後、当日と9月に2回の分析会議を実施して、数値ではなく児童の顔が見える結果を全職員で受け止めました。そこで明らかになった課題への、解決に向けた取組を記述します。

## 2 基礎学力の向上

### (1) 複式指導方法の改善

学力向上のためにまず行ったのが授業改善です。昨年度は複式指導方法の研修を深め、学習のきまりを全学級で統一しました。今年度は「つなげる力の育成」をテーマに、学びの「広野スタイル」(4段階学習・リーダー学習・学習規律の統一)を確立する研修を進めています。また、2年続けて管内の複式教員研修塾を開催し、北海道教育大学釧路校の佐野比呂己教授を招いて国語科の複式授業を公開しました。



管内の先生方から意見をいただいた複式研修塾

### (2) CRTテストの活用

本市は2月に3年生と5年生でCRT学力調査を実施しています。本校では、年度当初にも苦手に気付くことが大切だと考え、5月にも前学年の学力調査を行うことにしました。(『学びチャレンジ』と命名し2年生以上で実施)これによって、前年度に定着しなかった箇所が明確になります。

### (3) 個別指導の実施

前述のCRTの結果を活用し、長期休業中の補習では個に応じたプリントによる個別指導を実施できるようになりました。また、毎月末を「学びチャレンジ週間」として、個に応じたプリントを自分で選択させています。さらに、家庭学習を週1回全職員でまる付けをする「宿題相互点検日」を設けました。「全職員で全児童を育てる」という合い言葉の下、個別指導を充実させています。

## 3 自ら学びに向かう力の育成

### (1) 家庭学習のシステム化

授業改善と両輪となって学力を向上させる「家庭学習」への取組時間を重視し、自分で計画を立てて学年に合った時間の学習ができるようにしました。その際、何をやっていいかわからないということがないように、必ず全員がやる項目と各自が選択する項目に分けて示しています。そのため、全学年で同じドリルを購入し、時間割には今日やるドリルの番号を明記することになりました。

### (2) ICT機器の活用

昨年度より通常学級の4クラスで実物投影機と大型TVを常設し、利用の頻度を大きく高めました。また、今年47回目となる日高管内の笛舞小学校との交流では大型TVとスカイプを使って事前交流をしました。インターネットを介した遠隔地との交流は、学びの可能性を大きく広げたと考えています。さらに今年度は民間の教育財団の実践研究助成を受けて、タブレットを購入しました。これにより、一人一台のタブレット操作が可能になり、スピーディに学びを視覚化・共有化できるようになりました。



スカイプを使った笛舞小学校との交流

## 4 カリキュラム・マネジメント

### (1) SWOT分析

学校改善を行うには全職員の力が必要であると考え、職員会議においてSWOT分析を行いました。この中で「脅威」に対抗するのはチームの取組だということが明らかになりました。誰が担当しても学校として同じ答えをもっていることが、学校の強みとなります。本校は小さなチームですが、みんなで力を合わせて進むことで、カリキュラム・マネジメントをはじめとした大きな学校改善ができると考えています。



付箋を使った全職員によるSWOT分析

### (2) 日課表の変更

	月	火	水	木	金
1	①	⑥	⑫	⑱	⑳
2	②	⑦	⑬	⑲	㉑
3	③	⑧	⑭	⑳	㉒
4	④	⑨	⑮	㉑	㉓
5	⑤	⑩	⑯	㉒	㉔
6	会議	⑪	⑰	㉓	㉕

→

	月	火	水	木	金
1	①	⑥	⑫	⑱	⑳
2	②	⑦	⑬	⑲	㉑
3	③	⑧	⑭	⑳	㉒
4	④	⑨	⑮	㉑	㉓
5	⑤	⑩	⑯	㉒	㉔
6	会議	⑪	⑰	㉓	㉕

カリキュラム・マネジメントの一つとして、今年度は始業時間を5分早め、木曜日の朝自習と清掃活動を削りました。これによって週に1回ですが30分早く下校する日ができました。バスで通学している児童もいるため、放課後は「広野っ子タイム」という自主的に学習する時間にしています。また、この時間は教員の教材研究の時間として使い、次年度以降の時数増にも対応できます。

### (3) 総合的な学習の時間の見直し

過去5年間の全国学力・学習状況調査の質問紙調査の設問『総合的な学習の時間』では、自分で課題をたてて情報を集め整理する活動に取り組んでいますか』に対して、当てはまらないと答えた児童が多くいます。つまり、本校では「総合的な学習の時間」のねらいを達成するような授業が実施できていないのではないかと考えます。予測不能といわれる未来を切り拓く力を養うのが、教科を超えた横断的な力です。昨年度末から、学校の外的資源や内的資源、自然・施設・人材などあらゆるものを活用できるように、総合的な学習の時間の内容や評価の観点について見直しを始めました。今後は総合を核とした教科横断的なカリキュラムを視覚的な表にまとめる予定です。

### (4) 時間を産み出す工夫

児童と向き合う時間や、指導の準備の時間が圧倒的に不足しています。そこでインターネットのグループウェアを使い、各分掌で書き込んだ予定をモニターに映し出して職員の打合せを短縮しています。また月1回行っていた職員会議を2か月に1回にし、「収穫祭」などの行事も短縮しました。今年は「学芸会」の取組を変える予定で、日常の学習で培ったことの発表の場とし、一人何種目もの出演で児童に過度な負担をかけないように計画しています。また、小規模ゆえに手書きで行っていた学校表簿（出席簿・あゆみ・指導要録等）についてもデータで対応できるようにしました。

## 5 成果と課題

成果としては考えられることの 하나가全国学力・学習状況調査やCRTに現われた学力の向上です。もう一つの成果はICT環境の整備です。9月末には全市に向けてICT活用授業を公開し指導方法を提案しました。課題としては新しい取組の数々が、まだ時間的な余裕に結びついておらず、逆に教師の負担感を招いている部分があることです。これまでの学校改善がビルド&ビルドになっていないか、真摯に受け止める必要があります。



多くの方に参観していただいたICT活用授業研究会

## 6 おわりに

本校の取組は道半ばですが、「職員に一体感がある」と評されることも増えました。小さなチームの学校改善が、いつか大きな成果に結び付くことを願っています。